

指導者・競技者注意事項

- 1 本大会は、2025年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施するとともに、児童である年齢を考慮した教育的配慮の下に競技を進行する。

2 招集について

- (1) 招集所は、本競技場第2ゲート内に設ける。
- (2) 競技者は、招集開始時刻から招集完了時刻の間、招集場所に待機しアスリートビブスと名前、組などの確認を受けること。また、トラック競技出場者は腰ナンバーを受取り右腰やや後方につけること。
- (3) 競技者は、コールを済ませた後、競技者係の指示に従い競技場所へ移動すること。
- (4) 招集時間は、下記のとおりとする。

競技種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	30分前	15分前
フィールド競技	50分前	40分前

- (5) 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなす。
- (6) 棄権する場合は、予め棄権届を招集所に提出すること。
- (7) 2種目に出場する競技者は、先に招集を受ける競技の際に他の競技に同時出場をすることを招集所の競技役員に申し出ること。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、各クラブに割り当てられたアスリートビブスを使用すること。
- (2) アスリートビブスは、ユニフォームの胸と背中にはっきり見えるように付けること。
(全種目とも、胸・背の両方につける。)

4 トラック競技

- (1) 本大会は、オールウェザー用のスパイク又はシューズを使用し、素足での競技は禁止する。
(スパイクのピンは、9mmを超えないものとする。)
- (2) スタートの合図は、英語とする。スタートの形は、クラウチングスタートとする。スターティングブロックは使用しなくても良い。同じ競技者が2回の不正スタートをした時はその競技者を失格とし、オープン参加として走る。
- (3) 80mハードルは、高さ・・・70cm 台数・・・9台
距離・・・スタート→1台目 [13m]、ハードル間 [7m]、9台目→フィニッシュ [11m] 失格・・・手で倒す・ハードルから脚(あし)が出た場合。
- (4) 800mでは、第一曲走路の終わりにマークされたブレイクラインの、スタート側により近い端までレーンを走る。競技者はこのブレイクラインから自分のレーンを離れることが許される。

5 フィールド競技

- (1) 走高跳の跳び方は「はさみ跳び」とし、脚が最初にバーを越え、マットへの着地は足裏からとする。
- (2) 走高跳は、自分が申告した高さから試技を開始し、3回続けて失敗した時点で終了とする。
(バーの上げ方について、1 mが練習。1 mから競技を開始する。はじめ5 c mずつ高さを上げ、1 2 5 c m以降は、2 c mずつ高さをあげる。)
- (3) 走幅跳とジャベリックボール投は、3回の試技を行う。3回試技終了後トップ8進出者を決定する。
- (4) ジャベリックボール投の試技の際は、ボール本体を持ち、オーバーハンドスローで投げることをとする。(羽だけを持って投げることは禁止する。また、助走距離は1 5 m以内とする。)
- (5) フィールド競技も、オールウェザー用のスパイク又はシューズを使用し、素足での競技は禁止する。(スパイクのピンは、9 mmを超えないものとする。)
- (6) フィールド競技の練習は、競技前に練習時間を十分に確保する。
- (7) 走高跳と走幅跳は、2ピットで行う。
*当日、何らかの事情により、変更する可能性がある。
- (8) 2種目同時出場をする競技者が競技開始前に申し出があった場合に決められた順序によらないで、試技順の変更を認める。
競技者が与えられた試技順(変更を含めて)に不在のときには、その試技時間が過ぎれば「パス扱い」とする。

6 リレー競技について

- (1) リレー競走のオーダー用紙は、招集開始時刻の6 0分前までに招集所(第2ゲート)に提出すること。なお、招集規定どおりに行うこと。
- (2) リレー競走に参加するチームは、原則として同一のユニフォームとする。ただし、ユニフォームがそろわない場合は、ハチマキなどで統一していれば認める。
リレー競走は男女各2名から編成され、走順は自由とする。
- (3) リレー・チームのメンバーは、どのラウンドにおいても、その競技会のリレー競技または他の種目に申し込んでいる競技者であれば誰でも出場することができる。どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。
招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更(オーダー用紙の差替え)は認めない。
医務員の判断による変更は、出場する競技者の変更のみ認められ編成(走る順番)の変更は認められない。

7 練習について

- (1) 補助陸上競技場で行うこと。(練習時は、補助陸上競技場審判員の指示に従うこと。)
(安全面からジャベリックボールの投擲練習はメイントラック以外での練習は禁止とする。)
- (2) 雨天時は、雨天練習場を開放する。

8 表彰について

(1) 各種目とも、1位から3位の入賞者に対して表彰を行う。

表彰は、ジャージもしくは T シャツで行う。

(2) 成績発表後、入賞者は待機場所（センターホール）に移動して待機すること。

9 その他

(1) 日本陸連競技規則内、2020年度のシューズ規則に関する改訂ルール（第143条・競技用靴）の適用外とする。

(2) 該当学年での参加を厳守すること。違反が判明したときは、その競技者を失格とする。

(3) 発表された結果に対する抗議は、競技規則 **TR7**に定められている時間内（次ラウンドが行われる場合にはアナウンス後15分以内、それ以外は30分以内）に、クラブ代表者が大会本部を通じて審判長に対して口頭で行い、控室で裁定を聞く。さらに、この裁定に納得できない場合は預託金（1万円）を添え、担当総務員を通じて Jury に文書で申し出る。

(4) 競技場内及びスタンドは、全て禁煙とする。

(5) 記録は、携帯の記録速報で確認すること。

(6) 招集所・補助陸上競技場への移動は、フィニッシュ地点付近階段～第2ゲートとし、競技場内は競技者・指導者（ADカード着用）のみとする。

(7) ジャベリックボール投・走高跳に出場する選手のクラブ指導者は AD カードを着用して助言エリアで競技中の競技者への助言ができる。

（ジャベリックボール投・走高跳の助言エリアは、メイントラック内に設置する。）

(8) 応急処置を必要とする事故が生じた時は、本大会本部に連絡し処置を受けること。

なお、大会本部としても一括傷害保険に加入しているので、適用を受ける場合はその旨を大会本部に申し出ること。

10 写真・ビデオ等の撮影について

(1) 盗撮防止のため、望遠レンズ付きカメラによる撮影は、主催者が認めた場合のみ許可をする。競技場西ゲートの受付で AD カードを受取り、首にかけて撮影すること。

(2) AD カードの有無に関わらず不適切な行動や撮影が認められた場合には、大会関係者によりお声掛けする場合がある。